

I 教育理念

獨協学園は、「知育・徳育・体育」の3つを揚げ教育に臨んでいる。獨協医科大学は「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師を育成する」ことを教育の基本理念としている。本看護専門学校は「知育・徳育・体育」の精神に基づいて、人格を涵養し、「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する」ことを教育の理念とする。

II 教育目的

豊かな人間性を養い、臨床看護実践能力のある看護師を育成する。

III 教育目標

1. 人間の生命と権利を尊重し、人間を総合的にとらえる能力を養う。
2. 科学的根拠及び論理的思考に基いた看護が実践できる基礎的能力を養う。
3. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、協働意識をもって看護の機能を発揮できる基礎的能力を養う。
4. 心身ともに健康で、バランスの取れた豊かな人間性を養う。
5. 主体的に学習し、考え、看護を探究する姿勢を養う。
6. 生命と人に対する深い畏敬の念と倫理観を備えた看護観を形成する基礎的能力を養う。

IV アドミッションポリシー

1. 人間や健康、人々の生活に関心がある人
2. 他者を尊敬し、人々とのふれあいができる人
3. 自ら考え、自分の意見を表現できる人
4. 看護師を目指す意思を強く持っている人
5. 使命感と責任感をもち、地域住民の健康に関心を持てる人

V ディプロマポリシー

1. 看護倫理に基づいた、思いやりのある看護ができる。
2. 看護師としての責任と自覚をもち、主体的に学習する姿勢がある。
3. 人間を総合的に理解し、科学的な根拠に基づいて健康問題を解決する能力がある。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、連携と協働ができる基礎的能力がある。
5. 生命と人に対する尊厳を重んじた自己の看護観を持っている。

VI カリキュラムポリシー

教育理念・教育目標を受け、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成・運営している。

1. カリキュラムの構成

本カリキュラムは、「人間」「健康」「環境」「看護」の4つの概念で構成する。「人間」は、成長・発達を続ける身体・精神・社会的側面から、「健康」は全ての健康レベルの側面から、「環境」は人間の心身と生活の側面から「看護」をとらえる。

そして、看護の実践的・専門的職業教育を通して人間形成をするとともに、多様化・国際化の進む社会の中で、臨床看護実践を科学的・論理的に遂行する能力、看護の発展と質の向上に貢献できる基礎的能力を備えた看護師を育成するよう科目を構成する。

2. ディプロマポリシーに基づいた科目の配置

1) 豊かな人間性と倫理観に基づく看護を学ぶ科目

<基礎分野> 「心理学」「哲学」「人間関係論」「レクリエーション論」「音楽」「社会学」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」

<専門基礎分野> 「健康と保健体育」

2) 看護師としての責任と自覚をもち主体的に学習する姿勢を育む科目

<基礎分野> 「教育学」「情報科学Ⅰ」「情報科学Ⅱ」「論理学」

3) 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいて健康問題を解決する力を育む科目

<基礎分野> 「看護物理学」

<専門基礎分野> 「解剖生理学Ⅰ～Ⅳ」「病態生理学Ⅰ～Ⅴ」「生化学」「微生物学」「病理学」「薬理学」「栄養学」

<専門分野> 「基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅶ」「臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ」

「成人看護学概論」「成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲ」

「老年看護学概論」「老年看護学方法論Ⅰ～Ⅲ」

「小児看護学概論」「小児看護学方法論Ⅰ～Ⅲ」

「母性看護学概論」「母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ」

「精神看護学概論」「精神看護学方法論Ⅰ～Ⅲ」

<統合分野> 「在宅看護論方法論」「在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅲ」「看護研究」

- 4) 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解し、連携と協働ができる基礎を学ぶ科目

<専門基礎分野> 「保健医療概論」「リハビリテーション論」「公衆衛生学」

「社会保障論」「家族支援論」「看護と法律」

<統合分野> 「看護の統合と実践方法論Ⅰ」「看護の統合と実践方法論Ⅱ」

- 5) 看護実践に必要な基礎的能力と生命と人に対する尊厳を重んじ看護観を深める科目

<専門分野> 「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」

「成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「母性看護学実習」

「精神看護学実習」

<統合分野> 「看護管理」「在宅看護論実習」「統合実習」

3. ディプロマポリシーをふまえコンピテンシーを育成する学習方法

- 1) 早期から生命に関わる職業に就く覚悟、看護師としての責任と自覚をもつことが必要である。そのため、講義や演習の中で常に実践現場を想起させ実際の看護の場で活用できる力を育てる。
- 2) 看護に必要なコンピテンシーを育成するために、プロジェクト学習方法を取り入れている。この学習方法により、解のない問いに対し、課題発見し情報リサーチをもとに論理的に思考を展開させ、課題解決していく力を育む。そして、この学習方法により主体的に学習する姿勢を養う。
- 3) また、このプロジェクト学習の特徴である共同学習により、専門職業人としての倫理観のもと、多様な価値観にふれながら課題を探求し、変化する社会や人々のニーズをふまえ保健医療福祉チームにおける連携と協働と看護の発展に寄与できる力を育成する。
- 4) 実習は、知識・技術・態度を統合し、対象との関係形成を基盤として個別の状況に応じた看護を実践を通して学ぶ。リフレクションにより経験を意味づけ、また明確になった自己課題を解決し、質の高い看護を探求していく。

4. 学修成果の評価

学修成果の評価は、授業の進度に合わせてシラバスに明示された到達目標と成果を示す小テスト・定期試験・レポート・グループワークや授業への参加状況、実習評価等を含め、多様な方法で総合的に行う。加えて、学修の取り組みについて学生自身が自己評価を行い、課題解決に向けて取り組む。

VII 学年目標

教育理念

獨協学園は、「知育・徳育・体育」の3つを揚げ教育に臨んでいる。獨協医科大学は「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師を育成する」ことを教育の基本理念としている。本看護専門学校は「知育・徳育・体育」の精神に基づいて、人格を涵養し、「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する」ことを教育の理念とする。

教育目的

豊かな人間性を養い、臨床看護実践能力のある看護師を育成する。

教育目標

1. 人間の生命と権利を尊重し、人間を総合的にとらえる能力を養う。
2. 科学的根拠及び論理的思考に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
3. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、協働意識をもって看護の機能を発揮できる基礎的能力を養う。
4. 心身ともに健康で、バランスの取れた豊かな人間性を養う。
5. 主体的に学習し、考え、看護を探究する姿勢を養う。
6. 自己の看護観を形成することができる。

卒業時の学生像

1. 看護倫理に基づいた、思いやりのある看護ができる。

- ① 人間の尊厳について考えることができる。
- ② 他者を尊重し、自己を理解したうえで、対象者と関わり、人間関係を深めることができる。

2. 看護師としての責任と自覚を持ち、主体的に学習する姿勢がある。

- ① 専門職者としての役割を理解できる。
- ② 主体的に自己学習し向上しようとする姿勢を持ち、生涯にわたり継続的に学習し看護を探究し続ける素地を身につける。

3. 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいて健康問題を解決する能力がある。






- ① 看護の対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。
- ② 論理的思考・判断力・専門的知識をもって健康上の問題を解決することができる。
- ③ あらゆる成長発達段階・健康レベル・生活の場に応じた看護が実践できる。
- ④ 地域で生活している対象の生活の質を向上させる看護援助を考えることができる。

4. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解し、連携と協働ができる基礎的能力がある。

- ① 保健医療チームメンバーそれぞれの役割が理解できる。
- ② 保健医療チームで解決すべき対象の課題がわかる。
- ③ 保健医療チーム内で必要な報告・連絡・相談ができる。

5. 自己の看護観を持っている。

- ① 自己の看護実践を振り返り看護観を持つことができる。

	1 学年	2 学年	3 学年
	1. 相手の話を聞くことができ、自分の意見を表現することができる。	1. 人間関係において自己の課題を認識し、相手の存在を認めることができるよう努力できる。	1. 看護の対象者とのかかわりを通して人間として成長し、異なる価値観を受けとめ他者を尊重することができる。
	1. 看護師を目指すものとして学生生活の中での決まりごとを守れる。 2. 学習習慣を身に付け、生活リズムを作ることができる。 3. 自己の傾向を知り、克服すべき課題を見出せる。	1. 相手の立場を考えた報告・連絡・相談ができる。 2. 向上心を持って主体的に学習に臨むことができる。 3. 自己課題解決に向けて努力できる。	1. 対象者への看護を通して、専門職者としての責務を自覚し行動できる。 2. 看護について探究心を持ち主体的に学習することができる。 3. 自己の発展のために新たな目標を設定し努力できる。
	1. 看護に必要な基礎的知識を科学的根拠に基づいて理解できる。 2. 原理・原則に基づいた看護技術の習得ができる。 3. あらゆる場における対象とその生活を理解できる。	1. 論理的思考をもって成長発達段階・健康レベル・生活の場に応じた看護の方法が理解できる。 2. 原理・原則に基づいた看護技術が実践できる。 3. 地域で生活している対象の看護援助を考えられる。	1. あらゆる場において健康の保持増進、疾病予防、健康の回復に関わる看護実践ができる。 2. 看護実践と看護理論を結びつけて理解できるとともに対象に合わせて看護技術を応用できる。 3. 地域で生活している対象の生活の質を向上させる看護援助を考えられる。
	1. 保健・医療・福祉の仕組みが理解できる。 2. 他職種の役割を知るとともに看護の役割と独自性が理解できる。	1. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の介入の必要性がわかる。	1. 生活者へのかかわりとして、他職種との連携、調整の必要性を認識し、具体的にイメージできる。
	1. 看護援助の体験や見学を通して行われている看護の意味づけを行うことができる。	1. 対象者との関わりを通して、自己の看護を振り返り看護観を考えることができる。	1. 各専門分野の看護実践を通して、看護において大切にしたい自己の考えを持ち、論理的に表現できる。

VIII 主要概念の考え方

人間

1. 人間は、身体的・精神的・社会的存在として統合された存在である。
2. 人間は、恒常性・自然治癒力を持ち、自立した存在である。
3. 人間は、外的環境との相互作用によって常に健康レベルが変化している存在である。
4. 人間は、受胎から死に至るまで常に成長・発達し続ける存在である。
5. 人間は、向上心や自己教育力を持つ存在である。
6. 人間は、種族保存の本能を持ち死を迎える存在である。
7. 人間は、独自の文化・習慣・宗教を持ち生活している社会的存在である。
8. 人間は、信念・価値観など、その人らしく生きることをめざす主体的な存在である。
9. 人間は、基本的欲求を持つ存在である。
10. 人間は、内部環境の恒常性の維持に向けて、外部環境と相互作用する。

環境

1. 環境には、外部環境、内部環境があり、人間の生活に影響する。
2. 外部環境には、自然環境、社会環境があり、これらは相互に影響する。
3. 内部環境とは、ホメオスターシスに基づいた生体内環境である。
4. 環境は、人間と環境の相互作用に深く関与する。
5. 環境は、健康に影響を与える。

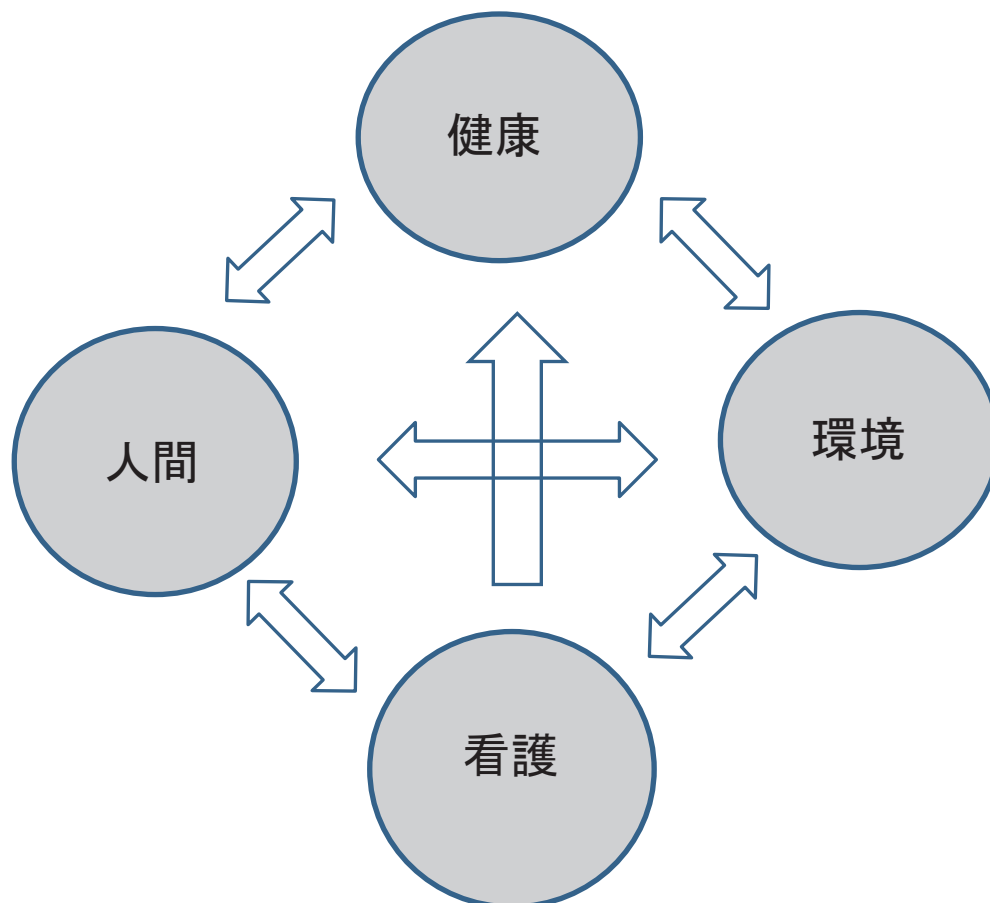
健康

1. 健康は、人間が日常生活において自らの能力を最大限に発揮し、自己実現に向かっている状態である。
2. 健康は、最良な状態から死に至るまでの連続的なレベルであり、絶えず流動的である。
3. 健康は、時代や文化、個人の価値観によって変わるものである。
4. 健康は、生きていくうえでの権利として誰にでも平等に保証され、社会生活の基盤となっている。
5. 健康は、環境に大きく影響を受ける。
6. 健康は、人間と環境の相互作用によって変化する。
7. 健康は、人間の価値観や生活、社会的役割に影響を及ぼす。

看護

1. 看護は、あらゆる成長発達段階や健康状態にある個人及び集団を対象としている。
2. 看護は、個人及び集団がより良い健康状態に向かい生活の質が向上するように生活過程を整え、セルフケアができるよう働きかけることである。
3. 看護は、人間の健康に関する問題を明らかにし、人間と環境に系統的に働きかけ健康問題を解決していく。

4. 看護は、独自の機能を有し、保健医療福祉チームの中で他職種と協働しながら役割を担う。
5. 看護は、専門職として生涯にわたり継続的に看護を探究する姿勢を持つ。
6. 看護は、看護師の人間への関心や関係形成に影響を受ける。
7. 看護は、健康の維持増進または回復、平和な死に向けて基本的欲求が充足するように、個別性の保持と自立度の向上めざして生活行動を援助する。



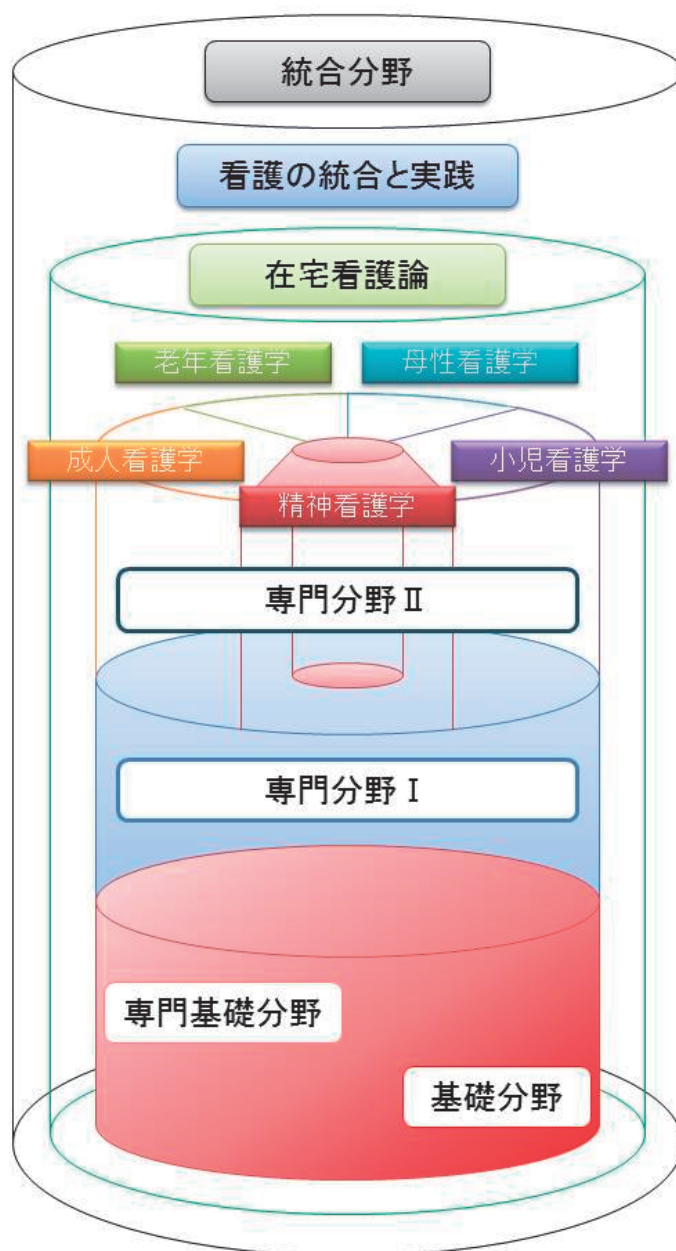
<概念間の関係性>

- ・ 人間は、内部環境の恒常性の維持に向けて、外部環境と相互作用する。
- ・ 環境は、人間と環境の相互作用に深く関与する。
- ・ 健康は、人間と環境の相互作用によって変化する。
- ・ 看護は、人間の健康に関する問題を明らかにし、人間と環境に系統的に働きかけ、健康問題を解決していく。

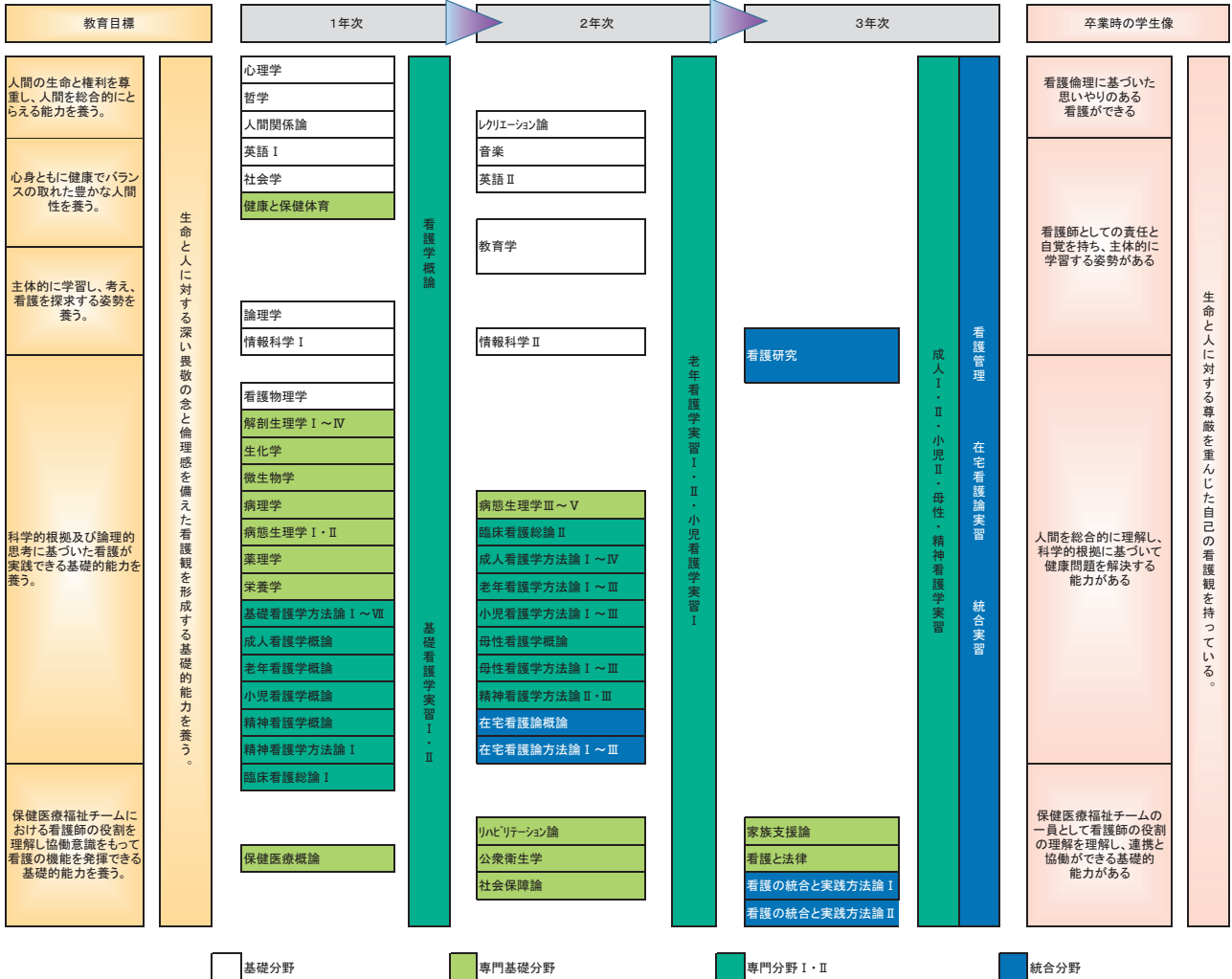
Ⅸ 教科構造図

基礎分野で生命や人間の理解と人間関係の形成を学び、専門基礎分野で人間の構造や疾病の成り立ち、人間の健康や回復の促進について学習する。それらを土台にして専門分野Ⅰ・Ⅱで看護の基本と対象の状況に応じた看護を学ぶ。精神看護学の位置づけは、専門分野Ⅱの中核であり、かつ成人・老年・母性・小児に並ぶ看護における専門領域とする。

これらの専門分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・Ⅱを包括する在宅看護論と看護の統合と実践の科目群で構成する統合分野で看護実践能力の基礎を培う。



X カリキュラムの構成



学科課程

科目		単位数	時間数			科目		単位数	時間数			
			1学年	2学年	3学年				1学年	2学年	3学年	
基礎分野	科学的思考の基礎	情報科学Ⅰ	1	30			専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30	
		情報科学Ⅱ	1		15				成人看護学方法論Ⅰ	1		30
		論理学	1	30					成人看護学方法論Ⅱ	1		30
		看護物理学	1	30					成人看護学方法論Ⅲ	1		30
	人間と生活・社会の理解	教育学	1		30				成人看護学方法論Ⅳ	2		45
		社会学	1	30					成人看護学実習Ⅰ	3		135
		心理学	1	30					成人看護学実習Ⅱ	3		135
		哲学	1	30				成人看護学 小計	12	30	135	270
		人間関係論	1	30				老年看護学	老年看護学概論	1	30	
		英語Ⅰ	1	30					老年看護学方法論Ⅰ	1		15
		英語Ⅱ	1		30				老年看護学方法論Ⅱ	1		30
	レクリエーション論	1		15		老年看護学方法論Ⅲ			1		30	
	音楽	1		15		老年看護学実習Ⅰ			2		90	
基礎分野 小計	13	240	105		老年看護学実習Ⅱ	2			90			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30			老年看護学 小計	8	30	255		
		解剖生理学Ⅱ	1	30			小児看護学	小児看護学概論	1	30		
		解剖生理学Ⅲ	1	30				小児看護学方法論Ⅰ	1		15	
		解剖生理学Ⅳ	1	30				小児看護学方法論Ⅱ	1		30	
		生化学	1	30				小児看護学方法論Ⅲ	1		30	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30				小児看護学実習Ⅰ	1		45	
		病理学	1	30				小児看護学実習Ⅱ	1		45	
		病態生理学Ⅰ	1	30			小児看護学 小計	6	30	120	45	
		病態生理学Ⅱ	1	30			母性看護学	母性看護学概論	1		30	
		病態生理学Ⅲ	1		30			母性看護学方法論Ⅰ	1		30	
		病態生理学Ⅳ	1		30			母性看護学方法論Ⅱ	1		30	
		病態生理学Ⅴ	1		30			母性看護学方法論Ⅲ	1		15	
		薬理学	1	30				母性看護学実習	2		90	
	栄養学	1	30			母性看護学 小計	6		105	90		
	リハビリテーション論	1		15		精神看護学	精神看護学概論	1	30			
	健康支援と社会保障制度	保健医療概論	1	15				精神看護学方法論Ⅰ	1	15		
		公衆衛生学	1		30			精神看護学方法論Ⅱ	1		30	
		社会保障論	1		30			精神看護学方法論Ⅲ	1		30	
		看護と法律	1		15			精神看護学実習	2		90	
		家族支援論	1		15		精神看護学 小計	6	45	60	90	
		健康と保健体育	1	30			専門分野Ⅱ 合計	38	135	675	495	
専門基礎分野 小計	21	375	165	30	統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論	1		15		
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30					在宅看護論方法論Ⅰ	1		15
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30					在宅看護論方法論Ⅱ	1		30
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30					在宅看護論方法論Ⅲ	1		30
基礎看護学方法論Ⅲ		1	30				在宅看護論実習	2		90		
基礎看護学方法論Ⅳ		1	30				在宅看護論 小計	6		90	90	
基礎看護学方法論Ⅴ		1	30				看護の統合と実践	看護管理	1		15	
基礎看護学方法論Ⅵ		1	30					看護の統合と実践方法論Ⅰ	1		30	
基礎看護学方法論Ⅶ		1	30					看護の統合と実践方法論Ⅱ	1		30	
臨床看護総論Ⅰ		1	30					看護研究	1		30	
臨床看護総論Ⅱ		1		30				統合実習	2		90	
基礎看護学実習Ⅰ		1	45					看護の統合と実践 小計	6		195	
基礎看護学実習Ⅱ		2	90				統合分野 合計	12		90	285	
専門分野Ⅰ 小計		13	405	30			総合計	97	1,155	1,065	810	

カリキュラム進捗表

学期	前 期						後 期																	
	4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3	
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 学年	情報科学 I												社会学											
	論理学												解剖生理学 III											
	看護物理学												解剖生理学 IV											
	心理学												病理学											
	哲学												病態生理学 I											
	人間関係論												病態生理学 II											
	英語 I												薬理学											
	健康と保健体育						基礎看護学実習 I						栄養学											
	解剖生理学 I												保健医療概論											
	解剖生理学 II												基礎看護学方法論 III											
	生化学												基礎看護学方法論 VI											
	微生物学												基礎看護学方法論 VII											
	人間関係論												臨床看護総論 I											
	看護学概論												成人看護学概論											
	基礎看護学方法論 I												老年看護学概論											
基礎看護学方法論 II												小児看護学概論												
基礎看護学方法論 IV												精神看護学概論												
基礎看護学方法論 V												精神看護学方法論 I												
2 学年	教育学												情報科学 II											
	病態生理学 III												英語 II											
	病態生理学 IV												レクレーション論											
	病態生理学 V												音楽											
	リハビリテーション論						老年看護学実習 I・小児看護学実習 I						社会保障論											
	公衆衛生学												成人看護学方法論 III											
	臨床看護総論 II												成人看護学方法論 IV											
	成人看護学方法論 I												老年看護学方法論 III											
	成人看護学方法論 II												小児看護学方法論 III											
	老年看護学方法論 I												母性看護学方法論 II											
	老年看護学方法論 II												母性看護学方法論 III											
	小児看護学方法論 I												精神看護学方法論 III											
	小児看護学方法論 II												在宅看護論方法論 II											
	母性看護学概論												在宅看護論方法論 III											
	母性看護学方法論 I																							
精神看護学方法論 II																								
在宅看護論概論																								
在宅看護論方法論 I																								
3 学年	看護と法律																							
	家族支援論																							
	看護の統合と実践方法論 I																							
	看護の統合と実践方法論 II																							
	看護管理																							
	看護研究																							
	各看護学実習												各看護学実習・統合実習											